

令和4年度 学校評価自己評価

重点目標1 意欲を高める授業づくり

～主体的な学びを実現するための、ICT 機器及び授業改善シートを活用した意欲を高める授業づくり～

重点目標2 安全・安心な学校づくり

～安全教育の充実及び教職員の緊密な連携による安全管理の徹底～

評価基準； A：達成できた(90%以上) B：ある程度達成できた(80%以上) C：やや不十分、一部改善の余地がある(60%以上) D：改善が必要である(60%未満)

知的障害教育部門 小学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○ICT 機器を効果的に活用し、児童が興味関心を持って学習に取り組んだり、伝えたい気持ちを表現したりする力を高める。	・タブレットなどのICT 機器を発達段階に応じて効果的に取り入れ、主体的な学びや自発的な意思表出を促す。	・ICT 機器を活用した授業を定期的実施し、児童が主体的に学習に取り組んだり、意思表出したりする場面が増えたか。	B	・ICT 機器が授業場面で積極的に活用されている。発達段階や実態に応じた使い方で、児童が主体的に学習に取り組んだり、やりたい気持ちを表現したりする場面が見られた。	・動画教材やアプリなどが学部全体で共有できるとよい。また、発達段階によっては、タブレット使用目的を明確にし、メリハリを付けて使用する必要性がある。
	○児童が主体的に学習に取り組める環境設定や教材の工夫を行い、意欲を育む授業作りを行うことができる。	・授業改善シートの視点を元に授業作りを行う。シートを活用して客観的に授業を振り返り、PDCA サイクルで授業作りを行う。	・授業改善シートを活用した授業作りと振り返りを学年で学期に一度以上行うことができたか。	B	・学期に一度、授業改善シートを活用した実践を行った。良い点や改善点が可視化され、次時の授業づくりに生かすことができた。	・継続して取り組む。
重点目標2	○教員の危機意識を高め、ヒヤリハット事例や対応策等の情報を共有しながら安全管理の強化に努める。	・健康指導部と連携し、水害対応学習を実践する。 ・事例の速やかな共有、緊急時対応の流れの確認、月一回の話し合い活動の充実を図り、安全な指導に役立てる。	・児童の実態に応じた学習を行い、理解を深めることができたか。 ・事例やチェック票を活用し、教員間で共通理解を図りながら学習活動や児童対応を行うことができたか。	B	・発達段階に応じて、天候の変化に気付く学習、雨天時の徒歩学習、災害時の様子や約束事を知り水害について理解を深める学習などに取り組むことができた。 ・日々の気付きや危険予測の共有を行い、危険を未然に防ぐことができた。また、事例やチェック票を活用し、安全を意識して指導を行うことができた。	・児童の理解につながる教材や実践例を蓄積し、効果的な指導につなげる。 ・常に危機意識を持って指導に当たれるよう、引き続き、教員間で共通理解を図る。

知的障害教育部門 中学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○ICT 機器を効果的に活用することで、生徒が興味を持って学習に取り組んだり、伝えたい気持ちを表現したりする力を高める。	・他のクラスや他校の実践事例も取り入れ、タブレット端末や電子黒板などの機器を効果的に活用し、主体的な学びや自発的な意思表示を促す。	・他のクラスや他校の実践事例の情報を収集し、現在実施している授業の他にも、生徒の実態に応じた新たな機器活用法を各教室で実践できたか。	B	・日頃から授業においてタブレット端末やプロジェクターなどのICT 機器を活用できた。画面共有の機能はしらすぎ祭や交流活動、不登校生徒への対応等に生かすことができた。	・教員間で情報を共有しながら、一人一台活用なども視野に入れ、生徒の実態に応じたよりよい活用方法を研修する必要がある。
	○環境設定や教材の工夫を行い、生徒が生き生きと学ぶ授業作りを効果的に行う。	・授業改善シートを積極的に使用して客観的に授業を振り返り、授業改善を行う。	・授業改善シートを活用した振り返りを、教室内で学期に一度以上行うことができたか。	B	・各学期に1回ずつ、授業改善シートを使用した振り返りを行い、それを元に授業改善を行うことができた。	・授業の振り返りと改善には引き続き日常的に取り組んでいく。
重点目標2	○教員の危機意識を高め、ヒヤリハット事例や対応策等の情報を共有しながら安全管理の強化に努める。	・健康指導部と連携し、水害対応学習を実践する。 ・ヒヤリハット事例を記録用紙を活用して記録し、危機管理を要するポイントの共有を図る。また、緊急時対応の流れ等を共有する。 ・「安全・安心な学校作りチェック票」を毎月実施する。また、安全面や生徒指導上の配慮点について月1回話し合い、学部内で好事例の共有を行う。	・生徒の実態に応じた授業を展開し、生徒の理解を深めることができたか。 ・ヒヤリハット事例やチェック票を活用し、危機意識の共有ができたか。 ・教師の危機意識を高め、共通理解を図りながら学習活動や生徒への対応を行うことができたか。	B	・過去の水害に関する映像などを視聴することで生徒の理解を深めることができた。 ・ヒヤリハット事例やチェック表を元に、学部や学年間で安全面や生徒指導上の配慮点について日常的に確認し合い、危機意識の共有ができた。 ・事前にできる限り危険を把握するよう努めたり、気付いた箇所や不安定な生徒がいる場合はその都度対処したりするなど共通理解のもと対応ができた。	・今後も繰り返し学習を実践することで理解の定着を図り、自ら行動できる場面を増やす。 ・危機意識を高めるため、校外のニュース等にも関心を向けていく。

知的障害教育部門 高等部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○生徒が主体的に参加できる授業づくりに取り組むと共に、主体的な学びを促す授業改善に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の実態に合わせたICT機器を積極的に活用し、主体的、意欲的な学習を促す。 ・授業改善シートを基に客観的に授業を振り返ることで、生徒が主体的に取り組める授業改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した授業を定期的実施し、生徒が主体的に取り組む様子や学習への意欲が見られたか。 ・各学年で学期に1回程度、授業改善シートを活用し授業改善に努めることができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で調べ学習やまとめ等でタブレットを活用したり、電子黒板や大型モニターを使用し視覚的に教材を提示したりして、生徒の意欲の向上に繋げる授業を行うことができた。 ・各学年で、改善シートをもとに授業の振り返りをし、授業改善に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学級の授業を参考にするなどして、より効果的な活用方法を取り入れ、主体的意欲的な学習を促していく。 ・シートの活用の仕方を再度確認し、更に、授業に生かせるようにする。
重点目標2	○安全教育の充実及び職員の危機意識を高め、緊密な連携のもと安全・安心を重視した学習環境を設定・実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育、情報モラル教育、防災教育（水害教育）を分掌部と連携しながら実践する。 ・「安全・安心な学校作りチェック票」の実施、及び集計結果を確認し生徒の指導に生かす。 ・緊密な連携を図るため、指導体制について話し合いを持つ機会を設ける。また、けが・ヒヤリハットメモを活用し、事例を多面的な視点で検証することで再発防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に応じた授業を展開することができたか。 ・学年や教室内で、適宜指導体制について話し合うことで、共通理解を図り生徒の指導に当たることができたか。また、メモを活用し事例を検証し再発防止に努めることができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌部の用意した教材を活用し、実態に応じた授業を行うことができた。 ・毎月、チェック票を実施することで、教室内の環境や指導体制等共通理解を図ることができた。また、メモを活用し事例を検証して再発防止に努めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者教育については、全ての生徒の実態に応じた指導を行うことが難しかった。今後、内容を検討していく。 ・定期的に、確認が必要なので今後も継続していけると良い。

肢体不自由教育部門 小学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目標 1	【通常の学級】 ○身近な生活での役割を果たし、自主的に生活や学習に臨もうとする意欲を高める。	・授業改善シートを活用した授業検討会を教室ごとに学期に1回実施し、指導者間の情報共有とより良い授業づくりに役立てる。 ・ICT 機器を活用し、興味関心の幅を広げ、意欲的に学べる環境を設定する。	・自分の役割を理解して主体的に活動に取り組むことができたか。	/	・令和4年度在籍なし	/
	【重複障害学級】 ○身近な人に対して自分から働きかけたり、身近な生活への興味関心を高め、自分から行動したりする意欲を高める。	・授業改善シートを活用した授業検討会を教室ごとに学期に1回実施し、指導者間の情報共有とより良い授業づくりに役立てる。 ・ICT 機器を活用し、児童が分かりやすく、成功体験を積み重ね自信を持つ授業づくりに努める。	・授業検討会の結果を元に改善を図り、児童の主体的な働きかけや行動が増えたか。		B ・授業改善シートの活用で指導者間の情報共有ができ、指導への新しい視点を発見したり、児童の主体的な行動を引き出したりすることにつながった。 ・様々な学習でICT 機器を活用することで、児童の興味関心の広がりや集中して学習する姿が見られた。	
重点 目標 2	【B 部門共通】 ○防災学習において、児童生徒が情報に気づいたり、自分ができる対応行動をとったりするための指導を行う。	・水害対応学習や地震初期対応訓練、竜巻対応訓練などに際して、健康指導部と連携して授業実践を行う。 ・訓練で実際に行動した後、事前学習をすぐに実施することで学習を深める。	・事前事後学習で児童の実態に応じた内容や教材を扱い、理解を深めることができたか。	B	・事前事後学習では、イラスト、動画、音などを使った教材を使用したことで興味を持って注目したり、理解を深めたりする様子が見られた。 ・繰り返し行うことで児童が適切な避難行動を取ることができるようになった。	・より児童の実態に合った内容の設定を検討していく。 ・引き続き実施していく。
	○様々な事態を想定して教職員が連携することにより、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染防止対策を強化する。	・「ケガ・ヒヤリハットメモ」を使用することで事実を客観的に捉え、対応策の話し合いに生かす。 ・学校生活において、健康、安全上留意すべき事項を「B 部門チェックリスト」として共有し、特に以下の項目に重点を置く。 ①車椅子乗降時の適切な支援方法 ②安全な摂食指導 ③病気や怪我を防ぐ環境作り	・怪我やヒヤリハット事例が起きた際に、メモを使用して各自が項目に沿って事実をまとめ、解決策の検討を行うことができたか。 ・チェック項目として挙げた点について、学期末の反省で○の割合が90%を超えたか。		B ・ヒヤリハット事例を生かし、その後、安全面で共通理解のもと活動できた。 ・チェックリストやその結果を共有することで、お互いが安全を意識しながら指導することができた。	・引き続き実施していく。 ・引き続き実施していく。

肢体不自由教育部門 中学部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	【通常学級】 ○自己理解を深め、人との関わりを通して、自分の考えを適切に伝える力を身に付ける。	・自己理解を進めると共に自己肯定感を持てるように、学校生活全般において教師からの承認や称賛、激励を行う。 ・自立活動、総合的な学習の時間、学級活動等で、テーマ学習を進める(ICT機器、授業改善シートの活用も含む)。自分の考えや意見を整理し、相手に伝えたり発表したりする機会を積極的に持つ。	・自分から相手に対して、自分の考えや意見を適切に伝える機会が増えたか。 ・ICT機器を使用し、学習を進めることができたか。 ・授業改善シートを定期的に行い、振り返りや改善ができたか。		・令和4年度在籍なし	
	【重複障害学級】 ○周囲の人との関わりを通して、外界(人や物)への興味関心を持ち、自分の方法で意思を伝える力を高める。	・生徒の実態に応じて、生徒それぞれが分かる方法で指導支援を行う。 ・生徒のことば(身振り、発声、視線、表情等)に寄り添い、その都度応える。 ・授業や日常生活においてカードやスイッチ教材、タブレット等を活用し、生徒の興味関心を高める工夫をする。 ・日頃の授業や関わりについて生徒の姿から振り返り、改善を図る(授業改善シートの活用を含む)。 ・自立活動の事例検討会で定期的に評価・改善をする。	・周囲の人(教師等)に積極的に関わったり、関わりを受け入れたりする様子を通し、発信する場面が増えたか。 ・生徒それぞれの成長や変容が見られたか。	B	・それぞれの生徒にとって分かりやすい方法でやりとりすることができた。発信に速やかに応える、気持ちを代弁するなどの指導支援を通して、生徒の表出が増えたり要求を伝えたりすることが増えた。 ・スイッチ教材などの他、GIGA タブレットの活用が日常化し、学習の幅が広がり、生徒の興味関心を引き出すことができた。 ・授業改善シートを活用した授業実践では、チームで授業の組み立て、実践、振り返りができた。	・今後も継続し、一人一人に応じたやりとりを丁寧に重ね、生徒の「伝えたい」気持ちを大切にする。 ・今後、より効果的な活用について検討を重ねながら、ICT機器を学習に取り入れる。 ・今後も主体的な学びや分かる授業を大切にする。
重点目標2	【B部門共通】 ○防災学習において、児童生徒が情報に気づいたり、自分ができる対応行動をとったりするための指導を行う。	・水害対応学習や地震初期対応訓練、竜巻対応訓練などに際して、健康指導部と連携して授業実践を行う。 ・訓練で実際に行動した後、事後学習をすぐに実施することで学習を深める。	・事前事後学習で児童の実態に応じた内容や教材を扱い、理解を深めることができたか。	B	・地震初期対応訓練や火災避難訓練など、事前事後学習を通して、学習を深めることができた。 ・水害対応学習は、各教室で動画や画像を中心に学習した。	・訓練の都度、対応行動を確認したり、事前事後学習を十分に行ったりしながら指導にあたる。 ・事前事後学習は、生徒の実態に応じて分かりやすく指導支援する。
	○様々な事態を想定して教職員が連携することにより、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染防止対策を強化する。	・「ケガ・ヒヤリハットメモ」を使用することで事実を客観的に捉え、対応策の話し合いに生かす。 ・学校生活において、健康、安全上留意すべき事項を「B部門チェックリスト」として共有し、特に以下の項目に重点を置く。 ①車椅子乗降時の適切な支援方法 ②安全な摂食指導 ③病気や怪我を防ぐ環境作り	・怪我やヒヤリハット事例が起きた際に、メモを使用して各自が項目に沿って事実をまとめようとして、解決策の検討を行うことができたか。 ・チェック項目として挙げた点について、学期末の反省で○の割合が90%を超えたか。	B	・丁寧な健康観察や教室環境の整備を通して、体調変化、ケガ、感染症防止など生徒の安全な学校生活を保障することができた。 ・ヒヤリハットを共有することで、支援方法を見直したり危機意識を高めたりすることができた。	・今後も生徒の健康観察や学習環境に細やかに気を配る。また、互いに声を掛け合ったり、様々な事例を共有したりして、危機意識を常に持つ。

肢体不自由教育部門 高等部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	【通常学級】 ○自己理解を深め、関わる人に合わせて適切な対応をしたり、場に合わせた発言や行動をしたりすることができる。	・自立活動やホームルーム活動で、自分や他者の感情、自己認識や相手や場に応じた適切な発言や行動等について学習する。 ・ICT 機器を利用し、資料や情報を精選して提供したり、興味関心のあることを自ら調べたりすることができる環境を整えることで学習への意欲を深める。	・生徒が自分で考えながら、相手や場に応じた発言や行動をすることができているか。 ・適切な資料や情報の提供、教室でのICT 機器使用の環境づくりに努めることができたか。		・令和4年度在籍なし	
	【重複学級】 ○身近な人に対して適切な方法で思いや考えを伝えたり、自分で考えて行動したりしようとする事ができる。	・ホームルーム活動や自立活動、各教科等でICT 機器を活用した教材や学習内容を準備し、思いや考えを伝えるための学習を積極的に行う。 ・実習等を通して、自分の思いや考えを適切に伝える方法を実践する。 ・意欲を育む授業改善シートを活用し、授業研究を行う。	・授業での様子、発言(内容や回数)や振り返りの反省改善の様子から生徒の変容が見られたか。 ・実習での様子や記録から、生徒が適切な方法で伝えたり、考えて行動したりしようとする姿が見られたか。 ・学期ごとに各クラスで授業改善シートを活用して授業研究を行うことができたか。	B	・PP 資料やスイッチ教材 GIGA タブレットなどICT 機器を活用することで生徒が主体的に学習に取り組む場を増やすことができた。 ・校内実習や産業現場等における実習を通して、自分の役割を意識し自信を持って発言したり、意欲的に作業に取り組んだりする姿が見られた。 ・各学期、クラスごとに授業改善シートを活用した授業研究を行い授業改善に努めることができた。	
重点目標2	【B 部門共通】 ○防災学習において、児童生徒が情報に気づいたり、自分ができる対応行動をとったりするための指導を行う。	・水害対応学習や地震初期対応訓練、竜巻対応訓練などに際して、健康指導部と連携して授業実践を行う。 ・訓練で実際に行動した後、事前学習をすぐに実施することで学習を深める。	・事前事後学習で児童の実態に応じた内容や教材を扱い、理解を深めることができたか。	B	・様々な災害について、視覚教材等を活用し、繰り返し学習を行うことで、避難訓練時には落ち着いて話を聞いたり、自分の身を守る姿勢を取ったりすることができた。	・災害時等に、生徒が安全に適切な行動がとれるように、学習を重ねる。
	○様々な事態を想定して教職員が連携することにより、肢体不自由のある児童生徒の学校生活における安全管理、感染防止対策を強化する。	・「ケガ・ヒヤリハットメモ」を使用することで事実を客観的に捉え、対応策の話し合いに生かす。 ・学校生活において、健康、安全上留意すべき事項を「B 部門チェックリスト」として共有し、特に以下の項目に重点を置く。 ①車椅子乗降時の適切な支援方法 ②安全な摂食指導 ③病気や怪我を防ぐ環境作り	・怪我やヒヤリハット事例が起きた際に、メモを使用して各自が項目に沿って事実をまとめようとして、解決策の検討を行うことができたか。 ・チェック項目として挙げた点について、学期末の反省で○の割合が 90%を超えたか。	B	・けが、ヒヤリハットが起きた時に、原因と対応策等の情報共有を早く行うことで、繰り返しがないように、対策を練ることができた。 ・普段から生徒の実態や情報などを共有することで急な対応や補教にも安全に対応することができた。 ・1 学期末集計ではすべての項目で 80%以上であった。	・学部内で各生徒の実態や情報の共有をする。

訪問教育学級

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○リモートでの授業や行事の質の向上を図り、児童生徒の学習意欲の向上を図る。	・ICT機器を活用し、家族以外の人との関わりを増やすなど学習に効果的な環境を設定する。 ・リモート授業について授業改善シートを使用し、評価、検討を行い、内容の充実を図る。	・児童生徒がいつもと違う環境に気付いたり、意識を向けたりするなど意欲向上を図れたか。	B	・児童生徒宅と学校の授業をつなぎ、該当学部教員の協力を得てリモート授業を行った。また在宅児童生徒宅をつなぎ、集団授業を行うことができた。 ・星風院と連携して、Zoomによる授業を6月から毎月行えるようになった。 ・リモート授業で有効な教材の工夫やリモート授業用のライトやスピーカーを購入し、質の向上を図ることができた。 ・画面や聞こえてくる声に意識を向けている様子や体の動きも見られ、児童生徒の意欲の向上を図ることができている。	・今後もリモートでの授業が見込まれるため、学部の教員や施設職員と十分に連携を図る。 ・また、教材、授業の工夫も継続して行っていく。
重点目標2	○コロナ禍における安全・安心な教育活動の実践を行う。	・コロナの感染状況により、保護者や施設と連携し、授業形態等について十分相談し実施する。 ・訪問教員間で感染防止対策を共有し、自己管理、指導上の環境衛生の徹底に努める。	・授業形態の工夫や感染防止対策に努め、安全安心に授業を行うことができたか。	B	・保護者と毎回体調について伺い、状況に応じた授業を行っている。消毒スプレーやフェイスシールドなどを使用し、感染対策を十分に行った。 ・感染状況により、保護者と相談しリモートに切り替えて授業を行った。 ・リモート授業で使用する教材についても、共有しないよう病棟ごとに分けたり、個別に用意したりした。	・訪問授業において十分な感染対策を継続して行う。 ・リモートでなくても、安全にスクーリングを行えるよう、十分な対策を講じて計画、実施する。

分教室

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○ICT等を活用した授業を行うことで、児童生徒が、自ら学ぼうとする気持ちを高める。	・職員のICT活用指導力が向上するよう部内で研修する。 ・ICT機器を活用し遠隔授業を実施した際、授業改善シートを用い、評価、検討を行うことで授業に生かしていく。	・児童生徒が、ICT活用の授業を受けて、学習目標等を達成することができたか。	A	・教員間でICT活用指導力向上のために研修を実施した。 ・デジタル教材の活用やICT機器を活用することで児童生徒が興味を持って授業に取り組むことができた。	・獨協 Wi-Fi が接続しにくい時間帯には、iPadで代替できるように準備をする必要がある。 ・視覚的に分かりやすいことと、入院中のため体験活動が乏しいことから今後もICT機器を活用し授業に活用できるよう研修していく。
重点目標2	○病棟と連携しながら、防災・感染症に対する意識をさらに高め、教員間でも連携をとり児童生徒に対して安全教育活動を行う。	・日常的に病棟と安全管理の確認をしながら、全員で情報共有し実践していく。 ・これまでのヒヤリハットの案件や毎月行っている安全・安心な学校づくりチェック票を活用して個々の注意喚起と相互の言葉掛けを実施する。 ・学習を通して、身近にある危険に気付かせ、安全意識を高めていくとともに、具体的に身を守る方法を繰り返し指導していく。	・病棟と連携しながら、安全管理に努めることができたか。 ・全員が協力し合って、事故やけががなく指導支援ができたか。 ・いろいろな災害に対して身を守る方法を理解できたか。	A	・病棟に確認しながら安全に教育活動を行うことができた。 ・教員間でも協力し、言葉掛けをしながら確認していくことでけがや事故なく活動することができた。 ・授業を通して災害時に留意すること、日常生活でも取り組めることなどの安全教育に取り組んだ。	・今後も取り組みを継続し、情報の共有を図り、取り組んでいく。 ・教員の安全に関する意識を保つため、月に一度安全対策について話し合う機会を持ち確認する。 ・授業の中で動画を通して災害の恐ろしさや身近に起きうることとして身を守る方法を確認したり、自分にできることを考えたりする機会を作る。

教務部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○校内研修などを通して、教職員のICT機器活用力を高めたり、授業研究会で授業改善シートを活用したりして、実践につなげる。	・ICT教育推進委員会および情報部と連携する。授業内容を考える手掛かりとなるような、機器の活用方法についての研修や提案を行う。 ・授業研究会時に、授業改善シートを踏まえた振り返りの機会を設ける。	・ICT機器を活用した新たな授業の事例が各学部で見られたか。 ・全ての授業研究会で、今後の改善策を導き出すような話し合いができたか。	B	・Teamsでのオンライン授業で、体育館や校庭と教室をつないだり、画面共有機能を活用して資料を提示したりする事例が見られた。 ・研究授業の後には、シートを活用して授業者に助言等をした。また、授業研究会でも、シートの視点を交えて行った。	・学習指導部、情報部と連携し、効果的な事例を共有できるようにしていく。 ・学習指導部と連携し、先生方が意識して授業づくりに取り組めるように発信していく。
重点目標2	○学校安全管理について、教職員同士が共有し意識を高められるようにする。	・安全に関することについて校務日誌に記載して周知し、安全管理の徹底を喚起する。	・教職員が自ら安全管理について共有し合い、実践する様子が増えたか。 ・行動観察により昨年度と比較し評価する。	B	・校務日誌で周知する前から雨天時の対策に取り組んだり、WBGTを計測したりする教員が増えた。 ・危険な箇所に気づき、改善策を提案したり、話し合っ改善したりする教員が増えた。	・今後も、主幹教諭と連携して取り組んでいく。 ・校務日誌以外で、先生方の意識を高められる策を検討していく。

情報部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	OGIGA タブレットの授業への利用を促進するために、適切な使用についての研修等を行う。	・情報機器の活用に関する研修を行い、利用法についての理解を深める。 ・部内で連携を取り、トラブルに対応できる体制をとる。	・利用法についての研修を行い、積極的に用いる事ができるようにする。 アップデートなどの作業を定期的に行う。	B	・各学部で必要に応じて研修等を行った。現在は多くの学部、学年でGIGA タブレットを使用しており、学習場面で使用などかなり浸透してきている。	・次年度も同様に行っていく。また、ICT 支援員を有効活用し、より活用しやすい環境づくりを目指す。
重点目標2	○情報モラルについての学習を行い、児童生徒や教員に安全な情報機器の利用についての意識を持つように促す。	・教員研修を行い、教員が安全に情報機器を利用することについての啓発を行う。 ・セキュリティポリシーの周知を行う。 ・情報モラルに関する学習を行い、安全、安心にネットを使おうとする意識を持てるように促す。	・セキュリティポリシーについての研修を行い、安全な情報機器の利用について理解を促す。 ・児童生徒に対して情報モラル教育を実施する。	B	・教員を対象に学部ごとに研修を行った。著作権や情報の発信などに意識を持つ様子が見られた。児童生徒に対しては初期段階として知ることを目的として行った。	・今後も継続して行っていく。児童生徒に対しては啓蒙も含めて毎年行っていけるように準備しておく。

学習指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○児童生徒が生き生きと学ぶ授業作りを目指すために、ICT 機器を効果的に取り入れた学習や授業改善シートを用いた客観的な振り返りの推進を図る。	・教材教具展などにおいてICT 機器を活用した教材や授業の紹介を行い、教職員の知識や技能の向上を支援するとともに、児童生徒の理解や表現を促す手立てとしてICT 機器を取り入れた学習の工夫を働き掛ける。 ・各学部で授業改善シートの活用方法について周知し、実際の学習場面での活用を働き掛ける。	・ICT 機器活用の工夫について教職員間で情報を共有し、活用しやすくする働き掛けができたか。 ・各学部での取り組み状況について、年度末にアンケートを実施し、反省・改善点を上げることができたか。	B	・教材教具展の開催において、ICT 機器を活用した教材や書籍等の紹介を行った。また、要望により紹介された教材について校務 LAN 上にフォルダを作成し、データの公開を行った。 ・各学習集団につき学期 1 回、授業改善シートを用いた授業と振り返りを実践した。シートを用いての感想や振り返りの実施方法について、アンケートを実施し、意見の集約を行った。	・効果的な ICT 機器の活用について、今後も教材教具展など教員間で情報を共有できる場や機会を設けていく。 ・集約した意見をもとに、授業改善シートや検討会の在り方について成果と改善点を明確にし、児童生徒の意欲を高める授業づくりを行うため効果的に活用できるよう推進を図っていく。
重点目標2	○学校安全計画の学習内容を意識した指導計画を行い、教職員間で共通理解を図ることで安全管理を強化する	・単元題材指導計画の「指導上の留意点」に学校安全計画に沿った留意点を記入することを周知し、担当者間で共通理解を図った上で指導にあたるようにする。	・単元題材指導計画の提出時に、「指導上の留意点」に安全教育に関する内容が記載されていたかを確認することができたか。	B	・単元題材指導計画の書き方および作成上の注意点を記載した記入例を提示し教職員に周知した。提出時には、各注意事項の確認と合わせて安全教育の内容が記載されているか確認を行った。	・後期分の提出時にも同様に単元題材指導計画作成の注意点を確認・周知することで、安全教育に対する意識の向上を促す。また、教員間で共通理解を図った上での指導・支援ができるよう促していきたい。

交流教育部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○児童生徒が主体的に交流できる活動の計画や支援を行う。	・直接交流を行う際は、安全対策をとりながら、交流相手と関わることができるよう計画を工夫する。 ・間接交流を行う際は、Zoom や動画などのICT 機器を使用して、交流を行う。	・距離や会場の広さなどを配慮し、交流相手とやりとりすることができたか。 ・ICT 機器を活用し、交流相手とやりとりすることができたか。	B	・直接交流では、体育館や各教室に分かれ、少人数グループや学年入れ替え制での実施をすることで、交流相手とやりとりすることができた。 ・間接交流では、Zoom や teams、直接交流から間接交流に変更した場合には動画の交換をして、ICT 機器を使用し、交流することができた。	・次年度の交流活動は、直接交流で計画する。今年度同様、人数、場所、時間、活動内容について配慮し、主体的に交流相手とやりとりできるような計画をたてる。
重点目標2	○安全管理を行いながら、教員同士で共通理解を持って、計画を立てたり、実施したりする。	・新型コロナウイルス感染症対策を実施計画に明記する。 ・直接交流の場合は、実施に向けた最終判断日を決めたり、代替え案を設けたりして、感染レベルに応じて臨機応変に対応する。	・感染防止対策について実施計画に明記することができたか。 ・感染レベル等の状況に合わせて、交流先の担当者と連絡を取り合い、安全に実施することができたか。	B	・感染防止対策として、換気、消毒、人数や会場について実施計画に明記することができた。 ・直接交流の計画では、感染症の状況により実施の判断を行うこととして代替え案も計画し、状況に応じて間接交流に替えて実施することができた。	・次年度も交流活動の実施計画をたてる際には、新型コロナウイルス感染症対策、実施判断基準、代替え案（中止を含む）を計画し、安全管理を行いながら実施する。

生徒指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点目標1	○成人年齢の引き下げに伴い、卒業後のトラブルを見通した消費者教育の充実を図る。	・卒業後に予想されるトラブルを想定し、生徒の実態や進路に応じた消費者教育に関わる授業づくりに取り組む。	・生徒個々が消費者問題を身近であると理解し、対応策について考えることができたか。 ・社会生活で想定されるトラブルには、どのようなものがあるか知ることができたか。	A	・高等部の3年生を対象に、外部講師を招いた講演を実施した。身近なトラブルの実例を基にしたロールプレイを取り入れていただき、生徒個々が実際の場を体験しながら理解を深めることができた。	・次年度も継続して実施する。
重点目標2	○安全・安心な学校づくりに向けて、学校環境の整備に努めるとともに、教員の資質や能力の向上を図る。	・事件や事故が発生した場合に迅速で適切な対応ができるよう、教員の資質や能力の向上を図る。	・不審者対応訓練や校外捜索訓練などを通し、教員の資質や能力を向上させ、個々の危機意識を高めることができたか。 ・緊急時の教員の役割を明確にし、個々が理解することができたか。	A	・訓練を行って職員間の役割を明確にしておいたことで、実際に不審者への対応や児童生徒の校外捜索の際には、迅速な対応をすることができた。	・年度末の職員の異動があっても同様の対応ができるよう、次年度も継続して訓練を実施し、職員の資質や能力の向上に努めていく。

健康指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目標 1	○本校が浸水想定区域であることを踏まえ、児童生徒への水害対応学習を実施し、災害時に自らの身を守る力を向上させる。	・水害被災時の実体験や視覚教材等を活用し、より具体的な避難行動について学習できるようにする。 ・実態に応じ、居住地のハザードマップ等を基に、災害時の避難の仕方や避難所について学習する機会を設けるようにする。 ・学部だより等を活用して家庭への周知を図り、共通理解を図るようにする。	・実態に応じた実践的な水害対応学習を行うことができたか。 ・児童生徒が水害について理解を深め、適切な避難行動を知ることができたか。 ・学部だよりにおいて、学習の様子を伝えることができたか。	B	・大雨が懸念される時期に備え、各学部呼びかけ、6月に水害対応学習を実施した。実施に際しては活用できる資料の紹介や実施記録のまとめを行った。 ・各学級で実態に応じた指導を行ったことで、雨の日の危険性や避難行動等について、児童生徒の理解が深まった。 ・ホームページや学部だよりにより学習の様子を掲載し、家庭へ周知することができた。	・有事に適切な避難行動をとるためには、繰り返しの学習により定着を図っていくことが不可欠である。用いた教材や指導記録等の蓄積を図り、より充実した指導を今後も実践できるようにしていく必要がある。
重点 目標 2	○学校における感染防止及び事故の未然防止に向けて教職員の意識を高めるとともに、安全で適切な環境整備に努める。	・感染症や学校事故に関する様々な情報を周知、共有し、各職員が危機意識を持って指導ができるようにする。 ・ヒヤリハット事例等も活用しながら日常的に危険箇所や物品の点検を行い、改善したり、注意喚起を行ったりする。	・必要な情報の周知が徹底され、教職員の危機意識が高まったか。 ・危険箇所や物品の点検、改善、注意喚起を行い、安全な学習環境を整えることができたか。	B	・朝の打ち合わせや掲示板、放送等を活用し、熱中症や感染症等に関する情報を職員に周知することができた。情報の発信については、危機管理委員会とも連携を図って対応した。 ・施設安全点検を確実にし、危険箇所や物品の把握に努め、安全な学習環境の整備を行った。すぐに改善が難しい案件については、教員への周知や安全対策については課題があった。	・各職員がより危機意識を高められるよう、情報発信の方法や内容の精査を行っていく。 ・施設安全点検の周知や、危険箇所の注意喚起等について改善を図り、より安全な環境を整えられるようにしていく。

進路指導部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目標 1	○進路に関わる学習において、意欲や関心を高める支援や教材を工夫する。	・卒業後の生活について具体的にイメージできるように動画や写真等を活用する。 ・既存の資料を整理し、保管場所等を示すなどして、教職員が授業で動画等を活用しやすくする。	・分かりやすい支援や教材の準備・活用ができたか。	B	・産業現場等における実習の動画データや写真、福祉施設等のパンフレットを蓄積し、整理することができた。また、適宜活用して適切な進路指導を行うことができた。	・進路指導部で提供可能な情報や資料について、全体へ周知していく。
重点 目標 2	○産業現場等における実習などを安全に学習できるように計画・実施する。	・教職員の安全に対する意識を高め、各生徒の作業内容や経路が安全か事前に確認を行う。 ・実習期間中の天候等をよく確認する。 ・感染症の状況等により、臨機応変に対応する。	・進路に関わる学習を、安全に実施することができたか。	B	・産業現場等における実習や福祉施設の体験等、事前に担当と経路や作業内容をよく確認することで、安全に実施することができた。	・事前に作業内容や経路、生徒の状況を確認することで、教員の安全に対する意識を高め、事故なく安全に実施できるよう努める。また、必要に応じてチェックシートを活用できるようにする。

渉外部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 2	OPTA 役員と共に危機意識をもち、安全管理を行いながら、PTA 活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校の新型コロナウイルス感染症の感染状況、学習活動の取組などを、その都度情報として伝えていく。 PTA 活動用の新型コロナウイルス感染症対策のチェックリストを活用し、PTA 役員と共に確認し合いながら活動を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 役員会等で情報を提示し、理解を得ることができたか。 感染防止対策をとって、活動を実施することができたか。また、活動後に反省をとり、次の活動に生かすことができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 役員会で感染状況を話題にし、PTA 活動を検討することができた。 チェックリストの内容をPTA 役員が把握しており、リストを見なくても感染症対策について検討し、PTA 活動を企画、実施することができた。また、活動の反省を行い、それを受けて次年度の活動を考えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症に対する状況が徐々に変わってきているので、国や県の指針など、その都度確認しながらPTA 活動を検討、実施していく。 次年度は施設見学も実施する方向なので、感染症対策をしっかり確認、実施しながらPTA 活動を進めていく。

地域支援部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○意欲を高める授業づくりに関する実践例を紹介し、校内や地域の教員の支援に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 地域支援部発行の校内支援通信やHPにおいて、意欲を高める授業づくりの実践例を取り上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援通信やHPで、意欲を高める授業づくりの実践例を紹介することができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 校内支援通信では、A 高の取組状況を発信した。今後、他学部の取組も発信する予定。 教材・教具等の紹介ができるよう、学習指導部、情報部と連携し、形式を整えることができた。HP リニューアルに合わせて、現在準備を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度整えた形式は、次年度以降も使えるよう、引継ぎをする。 各学部の実践例を1つずつ持ち寄り、それらを合わせて1つの通信にする等、1部に負担が偏らないような工夫をしていく。
重点 目 標 2	○柘特サポートセンター事業では、感染防止行動の徹底と事故の未然防止に向けて教職員で連携を図り、安全管理を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会では、参加者の事前の健康チェック、当日の検温や換気、消毒の徹底を周知する。また、感染状況による対応について計画に盛り込む。 早期教育相談では、ヒヤリハット事例を含めた情報交換会を、前期・後期にそれぞれ行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染防止対策を行い、研修会を安全に実施することができたか。 情報交換会を通して教職員で連携し、安全に相談を実施できる体制ができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染拡大状況を加味して、新任特別支援学級担任のための研修会を動画配信にした。動画配信でも、質問事項は部内で検討し、電話で直接回答することで研修の充実を図ることができた。 1月実施予定の柘特サポートセンター研修は、対面での実施を予定しているが、状況に応じてリモートでの実施できるよう計画している。 感染状況に応じた実施基準にしたがい、安全に行うことができた。 早期教育相談担当者で情報交換会を開いたことで、情報共有でき、連携する体制ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画段階で、どのような状況では、どう対応するかを明確にしておくようにする。 早期教育相談を各部門ペアで行うことで、柔軟な対応をすることができた。引き続き、体制を整えて実施していく。

舎務部

	評価項目	具体策	評価の観点(指標)	評価	成果・取組状況	反省・改善
重点 目 標 1	○寄宿舎の行事運営や活動において、ICT機器を取り入れることに努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種オリエンテーション等にて、画像や映像を使用して説明する。 ・趣味の講座では、実際に舎生が操作する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・諸活動において、ICT機器を使用した活動を行うことができたか。 ・舎生が安全に、GIGA タブレットを使い、検索することができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各種オリエンテーションや歯磨きなど、日常生活の指導についても動画を使いICT機器を活用することができた。 ・GIGA タブレットを余暇時間にも使用し、ルールを守ってそれぞれに興味のあることを検索したり、友達と共有したりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA タブレット使用について、安全教室を開催しインターネット利用の注意事項や約束を確認する学習をし、SNS 利用の安全教育としても取り組むことができた。引き続き安全教育を行い、身を守る行動のさらなる定着に繋げていきたい。
重点 目 標 2	○舎生が、身の安全や感染予防への意識を高めることができるよう指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時等に身を守る方法を具体的に学ぶために、オリエンテーションを実施し、保護者へ周知する。 ・定時や、活動の前後に消毒や手洗い等を行うとともに、健康指導の時間を設け感染予防の必要性を定期的に周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難時の基本的な身の守り方や、避難場所を理解することができたか。また、学期に1回保護者に「寄宿舎だより」等で周知することができたか。 ・定時の手洗いうがいや、活動前後の手指消毒、鼻をかんだ後に手の消毒をすることができたか。 ・学期に1回、健康指導を実施し、その内容を保護者に周知することができたか。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の地震でも、対応行動をとることができるようになった。また、健康指導により、感染予防の大切さが分かり定着させることができた。また、舎生同士で声を掛け合う姿が見られ感染予防への意識は高まっている。 ・避難訓練や保健指導について、寄宿舎だよりやホームページで周知することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、災害時の身の守り方や各種の感染予防への意識を高める取り組みを実施することで、災害や感染などから身を守ることへの定着を図っていく。 ・引き続き、保護者への周知、安全教育活動、感染予防活動を継続していく。